猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

サル被害を減らす

最近サルの行動が大胆になり、B群では屋内を荒らす個体もいます。大切に育てた野菜を食べたり、屋根に上ったりなど様々なトラブルを起こしております。このまま何もしなければ、サルは人に慣れて好き放題するようになってしまいます。
サルの被害を減らすためには、地域ぐるみできちんと対策を行うことが重要です。

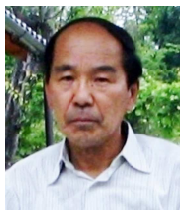
サルは、耕作地周辺の人の動きをしっかり観察しています。また彼らは、記憶力が良く今まで経験したことを良く覚えています。何度も被害に遭うのは、過去に彼らに良い思いをさせていたからに違いありません。
無意識の餌付けに気をつけましょう。
これがサル被害をエスカレートさせる最大の要因だと思います。
サルの立場で見れば集落全体が餌場です。無意識のうちに集落内に放置している餌をなくす努力が必要です。
サル対策の基本は、集落から盗られても怒らない作物をなくすことです。「云うは易し行うは難し」で、これは集落の一人一人が出来ることから、粘り強く取り組むことからは始まります。
サルの記憶力の良さを逆手に取り、今度はサルの嫌がることをして、集落は怖い場所だと覚え込ませることです。
彼らは、一度味わった恐怖体験は忘れません。怖い目にあわない集落から、みつかれば怖い目にあう集落へ。
追払いのポイントは、自分の畑だけでなく集落に現れる度に出来るだけ多くの人で、山の奥までしっかり追うことです。
MDでの追い払いは大きな効果があります。
サルは、人に身をさらすことを嫌います。
隠れながら安心して近づける集落から、見通しが良く安心できない集落への環境整備です。
田畑周辺の草刈や山際の刈払いを行い、見通しの良い環境をつくることが大事なことです。
防護柵を設置するなど、動物に魅力がない集落づくりを試みるということも大切です。今の時代、お金をかければ完全な柵が出来ると思いますが、サルが畑に浸入する時に、ちょっと手こずる程度の柵でも大きな効果があります。
サルは数十頭の群れで動くため、被害は大きく一日で、てしおにかけた作物が全滅することもあります。
サルが人里に下りてくる原因を排除し、繰り返し追い払いをすることでサルもやっかいな集落だと認識し、いずれ来なくなると思います。

サルの嫌がる集落

サル被害は決定的な対策が難しいこともあり、集落でいかに取組むかがポイントです。
最近は、農業被害は無論のこと、生活環境被害も多発しています。
移動図によるサルの動向を見てみますと、出没頻度が高く滞在時間が長い集落が見受けられます。
B群5月移動図では、1月の1/3が伊賀竜口周辺に集中しています。
A群のひなち湖周辺への集中は、ニセアカシアの花が食べ頃だからと聞いています。
滞在時間が長くなるにつれ人馴れが進み、さらに被害が拡大することになります。現に、竜口周辺では家屋浸入で大きな被害が出ています。
このような地域による被害状況の違いが、なぜ起こるのでしょうか?。
地域の環境も大きく影響します。平坦地域に比べ、山間地域の被害が大きくなることは否めないものがあります。だが、他に何か要因があるような気がしてなりません。
季節的に、サルの好む植物が山に沢山あるのか。畑の作物が楽に食べられるのか。
他の集落と比べ追い払いが手薄なのか……。
地域全体で検証する課題だと思います。

防護から攻めの手段
シカ追い出しに参加して

6月9日、宇陀市砥取地区のMDによるシカの追い出し作戦を取材。
砥取地区では、延べ3キロの防護柵を設置しています。
その保守などの他に、防護柵内に住みついたシカを追い出す作業を定期的に実施しています。
柵が長大になればなるほどシカの生息域を囲む可能性は大きくなります。
防護柵内部に鹿が住み着いてしまえば、柵を設置した意味が全くなくなってしまいます。定期的な追い出し作戦が必要です。
尚、防護柵内部に浸入したシカは、比較的簡単に捕獲できるということが、大きなメリットにもなります。
被害の軽減には捕獲による個体数調整が必要不可欠です。
この追い出し作戦の二次的な効果として、サルやイノシシの追い払いにもつながると、地元民は期待しています。


砥取地区自治会長
池内さん

広大な足場の悪い山林での追い出し作戦にはMD（野生動物追い払い犬）が最適で効果があります。
当日は、砥取地区の要請で猟友会2名、MD5頭が出動し、集落全員で追い出しを行いましたが、幸いなこと?にエリアでシカは発見できず人犬とも無事に終了しています。
自治会長と区民の話
「砥取地区は山間地に属する戸数16戸の小さな集落です。長年、サル・シカイ・ノシシの被害に苦しんできました。
柵が完成したのは、今年の3月頃です。資材は無償提供されたのですが、設置作業は地元でということで、地区民全員が大変苦労をしました。
この苦労が地域全体の絆となり、砥取を今まで以上に一致団結させたような気がしています」。
「これからは安心して農作業が出来ると思います。タケノコなどはここ数年収穫することが出来ませんでしたが、今年は久しぶりに食べることが出来ました」。

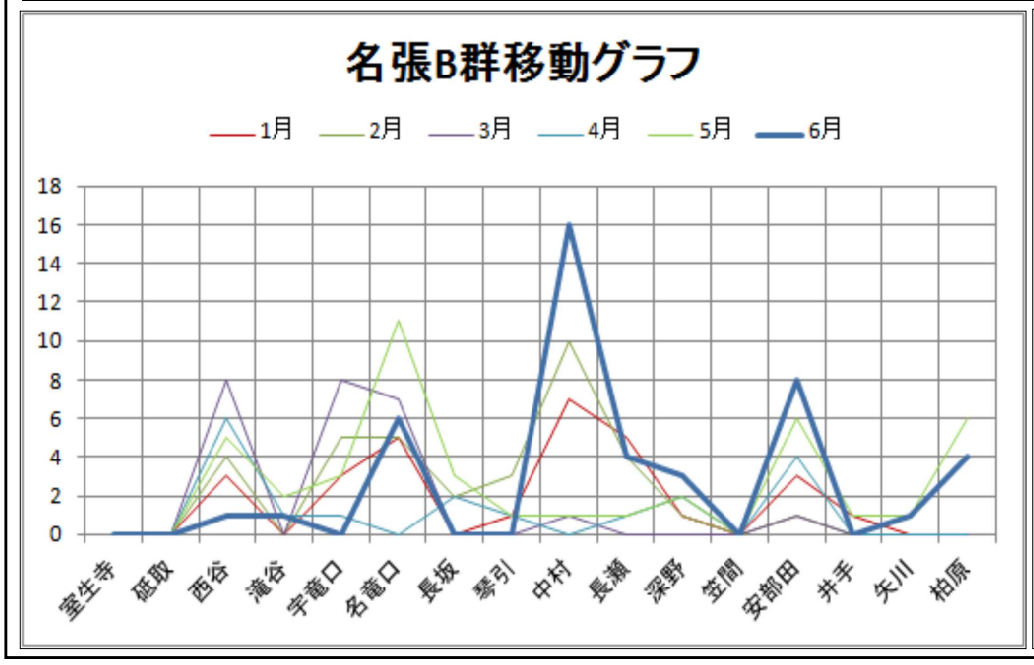
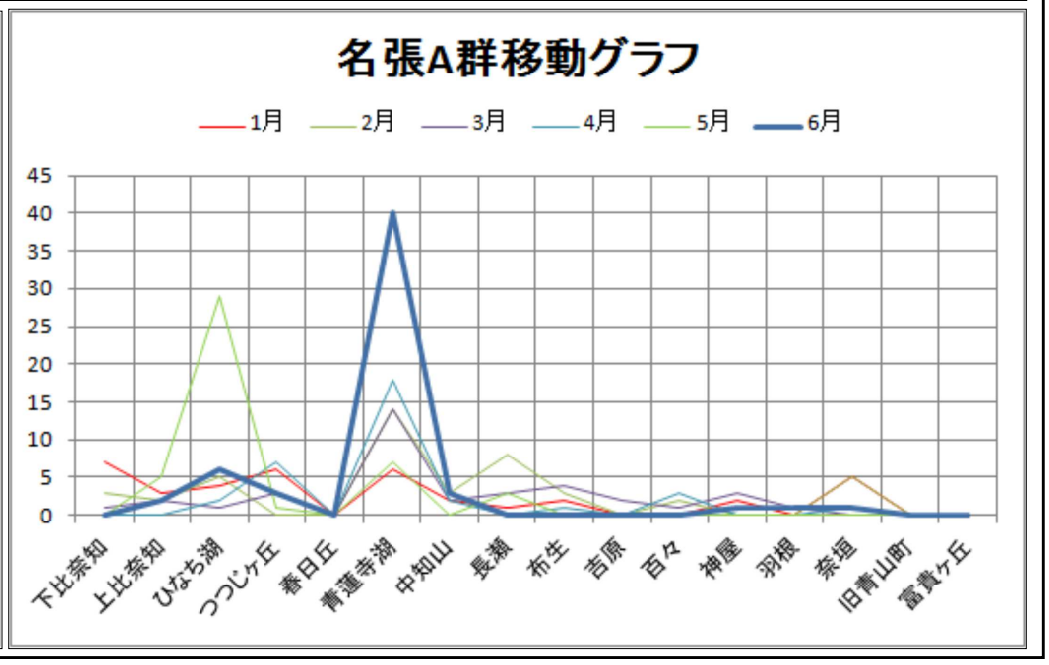
スイカを食べたのは誰や！

矢川では、スイカ被害続発しています。食痕から推察して写真右はカラスのようで、左はハクビシンの食痕だと思います。
アライグマは、丸い穴を開けて食べます。
穴の大きさはアライグマの手が入るくらいです。
ゴルフボールくらいからテニスボールくらいの大きさです。
ハクビシンは頭をつっこんで食べるため大きな穴があいているのが特徴です。ハクビシンは食い散らかしたような食跡となります。
食痕をよく観察して、相手を特定して対策を立てましょう。
写真は矢川Kさんの畑で。

サルの出没状況
名張A・B群

指南員報告
6月の動向
A群は、例年のように青蓮寺湖周辺には桑の実が豊富にあり、1ヶ月近くそれに執着していて、あまり広範囲に移動していない。農作物の被害の報告も殆ど聞かれない。
B群は相変わらず、移動の範囲が広く2、3日受信のない日、所在の確認が取れない日がある。
農作物の被害の報告は広範囲で聞く。

お知らせ

名張B群に、新しい発信機を装着したサルが2頭います。受信機を持っておられる方。
左記★印周波数の設定をお願いします。設定方法の解らない方は、名張市農林資源室まで。

B7　―　142.9600MHz　LSB
（14歳♀　2011/2～）
★B2　―　142.9500MHz　LSB
（3歳♀　2013/3～）
★B3　―　151.4440MHz　LSB
（10歳♀　2013/2～）